

令和4・5年度 第4回小牧市観光振興基本計画改定委員会 会議録

日 時	令和5年10月12日（木）15時00分～16時20分	
場 所	小牧市役所 本庁舎 601会議室	
出 席 者	<p>【委員】（委員長・副委員長を除き、あいうえお順）</p> <p>石川 徹委員長 小牧市 地域活性化営業部 部長</p> <p>池田 洋子副委員長 学校法人同朋学園 名古屋造形大学 特任教授/史跡小牧山整備計画審議会 会長/小牧市文化財保護審議会 会長</p> <p>池本 美和 尾張中央農業協同組合 相談部 ふれあい課 課長</p> <p>鵜飼 公俊 小牧観光ボランティアガイドの会 会長</p> <p>上野 文男 株式会社フジドリームエアラインズ 営業本部 営業部 担当部長</p> <p>木下 正章 名古屋鉄道株式会社 地域活性化推進本部 地域連携部 / ツーリズム担当課長</p> <p>田中 千奈代 株式会社JTBコミュニケーションデザイン コーポレートソリューション部 コミュニケーションプランニング局 /（地域振興担当）</p> <p>松井 真二 名鉄小牧ホテル 営業統括支配人</p> <p>松浦 秀則 一般社団法人小牧市観光協会 会長 あおい交通株式会社 代表取締役社長</p> <p>三輪 洋一郎 小牧商工会議所 中小企業相談所次長</p> <p>八木 祐介 一般社団法人小牧市観光協会 事務局長</p> <p>【欠席】</p> <p>小泉 学 株式会社JTBコミュニケーションデザイン コーポレートソリューション部 コミュニケーションプランニング局 局長/（ツーリズム担当）</p> <p>【事務局】</p> <p>三品 克二 小牧市 地域活性化営業部 次長</p> <p>村田 吉隆 小牧市 シティプロモーション課 課長</p> <p>長谷川 愛 小牧市 シティプロモーション課 係長</p> <p>兼松 秀伍 小牧市 シティプロモーション課 主査</p> <p>松波 克登史 ランドブレイン株式会社</p> <p>久世 晋一郎 ランドブレイン株式会社</p>	
傍聴者	1名	
配布資料	<p>資料1 （仮称）小牧市観光振興基本計画（2024-2028）素案</p> <p>当日追加資料 小牧市観光振興基本計画・小牧市観光重点プランの概略（平成28～32年度）</p>	

主な内容

1 開会

【事務局】

定刻となりましたので、会を始めさせていただきます。

本日は、お忙しいところ、小牧市観光振興基本計画改定委員会にご出席を賜り、まことにありがとうございます。

なお、小泉委員におかれましては、欠席のご連絡をいただいております。

それでは、第4回小牧市観光振興基本計画改定委員会を開催させていただきます。

なお、本日の傍聴者は1名です。

初めに、石川委員長よりごあいさつをいただきたいと思います。

【委員長】

本日は、お忙しい中、第4回小牧市観光振興基本計画改定委員会にご出席いただきましてありがとうございます。

前回の委員会では、次期計画期間における観光推進施策毎の取組例や評価指標の設定と進捗管理について、議論や情報提供をいただきましてありがとうございました。

今回は、今まで委員会でご議論いただいた内容を踏まえまして作成した（仮称）小牧市観光振興基本計画（2024-2028）の素案を議題としております。委員の皆様には、それぞれのお立場から活発なご意見をいただきたいと思います。どうか皆様よろしく願いいたします。

【事務局】

ありがとうございます。では、この後の進行については、石川委員長にお願いします。

2 議題（1）

【委員長】

それでは、2の議題に入ります。

議題（1）（仮称）小牧市観光振興基本計画（2024-2028）素案についてです。事務局より説明をお願いします。

【事務局】

それでは、資料1をご覧ください。

まず、4ページに目次がありますのでご覧ください。計画の構成は、前計画と同様大きく第Ⅰ部と第Ⅱ部に分かれており、今回の改定では、主に第Ⅱ部を中心に見直しを行いました。

前計画との相違点としては、まず第Ⅰ部の第2章で、新たなトレンドについて記載しました。また、第5章では、計画の進捗状況を評価するための指標として、新たに5項目を設定しております。

第Ⅱ部では、目次の項目上は大きな変化はありませんが、第5章で前回の委員会にて説明しました、6つの現状課題に対しての6つの戦略をそれぞれ新たに設定しています。また、推進施策や具体的な事業案についても、この6つの戦略に従って、抜本的な見直しを行いました。これについては後程説明します。

では、第Ⅰ部から順に説明してまいります。

まず第1章から第3章については、基本的に前計画をベースとし、今回改めて実施した5つの実態調査や、観光に関する新たなトレンドについて更新を行っています。実態調査の結果については、

前回までの委員会でご報告申し上げたとおりですが、平成 30 年に実施したブランド調査については、前計画の策定後の実施ですので、38～39 ページに新たに掲載しました。

第 4 章につきましても基本的には前計画を継承しております。

第 5 章につきましても、基本的には前計画を継承しておりますが、指標については今回刷新をしております。

50 ページをご覧ください。前計画では、計画の進捗を評価するための指標は 1 項目のみであり、それは、主要なイベント及び地域資源への来訪者の数、すなわち交流人口でありましたが、今回の改定では、観光に関する事業の進捗を多角的に評価することから、5 つの指標を新たに設定しています。

1 つ目は、来訪者数ということで、小牧山歴史館及び小牧山城史跡情報館（れきしるこまき）の来館者数を設定しています。

2 つ目は、本市への愛着・誇りを感じる割合ということで、市民意識調査において、小牧市に対して愛着・誇りを感じると回答した割合や小牧山歴史館・小牧山城史跡情報館（れきしるこまき）での利用者アンケートにおいて、本市の紹介意向があると回答した割合、また、観光に携わる個人や団体の数を設定しました。

3 つ目は、来訪者の満足度で、小牧山歴史館・小牧山城史跡情報館（れきしるこまき）での利用者アンケートにおいて、再来訪意向があると回答した割合、4 つ目の市内での消費額については、小牧山歴史館・小牧山城史跡情報館（れきしるこまき）での利用者アンケートにおける市内での消費金額の平均値を設定しています。

5 つ目の観光情報アクセス数については、小牧市観光協会のホームページへのアクセス数や SNS アカウントの投稿数、いいね数を設定しています。

なお、これらの指標の設定については、前回の委員会でご意見をいただきましたので、その対応について申し上げます。

まず、観光に携わる事業者数につきましては、2 つ目の指標、「本市への愛着・誇りを感じる割合」のうち、観光に携わる個人・団体の数として、（一社）小牧市観光協会の会員数を把握することで状況を確認したいと考えております。また、4 つ目の市内での消費額においても、事業者の現状把握をできないかと期待しているところであります。

次に来訪者数につきましては、今回の計画でも、小牧山をキーワードとし、小牧山をキーワードとした施策の実施を想定していることから、計画の指標としては、小牧山に関する来訪者数を的確に把握することができる小牧山歴史館と小牧山城史跡情報館（れきしるこまき）の来館者数を評価指標としたいと考えます。また、この 2 施設では、毎年来場者に観光に関するアンケートを実施し、観光動向の把握を行う予定としています。

評価指標の対象としましては、この 2 施設としますが、前計画でも評価指標としていました市内の一部施設やイベント等の来訪者数をまとめた観光地点等入込客数を、毎年度評価指標の結果を公表する「小牧市観光白書」の中で、参考数値として掲載し、現状把握・状況確認を行う予定であり、歴史好き以外の把握も行っていく予定です。

第 I 部については、概ね以上です。では、第 II 部の方を見てまいります。

まず、第 2 章の地域資源についてですが、さかのぼって 19 ページに記載したとおり、地域資源と観光資源という言葉を使い分けています。

では 56 ページをご覧ください。重点的に取り組むキーワードについてですが、キーワード自体は前計画同様に、「小牧山」「名古屋コーチン」「航空宇宙産業」の3項目を設定しています。しかしながら、航空宇宙産業については、MRJ 事業の撤退等により、今後の期待がこれまでほど望めないかと思われま

す。次に第4章、第5章をご覧ください。まず観光振興のテーマですが、前計画同様に「“夢・チャレンジ”始まる観光」ということで、前計画のテーマをそのまま継承しています。

59 ページをご覧ください。一方で、前計画とは異なり、昨年度実施した実態調査から得られた6つの課題に対応する形で、6つの観光戦略を新たに設定しました。1つ目から順に、事業者支援（育成）の強化、情報発信力強化、広域連携強化、おもてなし人材育成強化、地域資源の育成・魅力向上、観光スポットとしての環境強化の以上6項目です。

なお、前回までの委員会において、これら6つの観光戦略については、そのもととなる課題1から6までに対応するかたちで順序を設定しておりましたが、今回の改定作業の中で、項目の順番の入れ替えや、一部戦略の名称を変更しました。その理由としては特に、事業者を巻き込んだ観光振興を図っていききたいという考えから、事業者支援を最初に持ってきたということが大きいです。

では、それぞれの戦略の中身について見ていきます。

63 ページ以降をご覧ください。まず、事業者支援（育成）強化についてですが、観光資源の認知度向上や、受け入れ態勢の構築・強化のためには、観光分野への事業者の参画が不可欠であることによるものです。具体的な取り組みとしては、観光分野への新規参入事業者への支援を行い、これまでのような補助金制度、観光施策への参入支援、トライアルの機会提供を継続していくほか、新たに、こまき観光ビジネスプランの募集を実施し、市内外を問わず、観光振興に本気で取り組む意欲のある方を対象とした、観光ビジネスプランの募集を行います。

64 ページをご覧ください。次に情報発信力の強化についてです。昨今、様々な分野でDXの導入が高まりを見せていることから、観光振興においてもデジタルメディアを活用した情報発信に力を入れていきます。具体的には、紙媒体やSNSといった、媒体の特性を生かした情報発信に加え、新たにインフルエンサーの活用やWebプロモーションの実施など、より一人一人のユーザーに訴求できる取り組みを行います。また、個人の観光客だけでなく、企業や大学との共創による情報発信を行うことで、これまでよりも幅広い層に、小牧市の魅力を認知してもらうことをねらっています。小牧山の歴史やロケーションを活用したイベント開催については、従来の武将関連イベントの継続に加え、小牧山を会場とした事業者主催のイベントについても、その開催を支援していきます。交通事業者や企業等との共創については、これまでになく新しい取り組みです。ここでは交通事業者や大学など、異なる視点をもちながら観光に関わる各主体が互いに連携して、それぞれが持つ媒体やコネクションを活用し、情報発信していくことを考えています。

3番目の観光戦略は、広域連携の強化です。施策として周遊観光ルート形成を目指した広域連携、他自治体と連携した協議会の参画を想定しています。新しい取り組みとしては、共通するテーマ、例えば「小牧・長久手の戦い」などですが、それを有する複数の地域で、鉄道や高速道路の利用者を想定した周遊ルートづくりを行っていきます。

67 ページをご覧ください。4つ目の観光戦略は、おもてなし人材育成強化についてです。これについては、観光ガイドボランティア・観光サポーターの拡充を施策としています。リピーターを増やすには、おもてなしの心をもって接する地域の人材が必要であることから、これまで以上に市民の観光に対する関与を促進し、観光ボランティアガイドやサポーターを増やしていくことで、体制

が強化できると考えます。具体的な取り組みとしては、観光ガイドボランティアのための研修や勉強会の実施に加え、それらの人々の活動事業の拡大、また、観光ボランティアガイドやサポーター同士の交流会などを実施することで、地域資源に関する互いの知識を深めて、より良いおもてなしにつなげてもらうことを期待します。

68 ページをご覧ください。5 つ目の観光戦略は、地域資源の育成・魅力向上についてです。昨年度行った実態調査では、前回計画のキーワードとして設定された資源以外にも、篠岡の桃やぶどうといった、本市特有の地域資源が着目されていることがわかりました。また、工場見学などこれまでは観光の対象として認識されていなかったものでも、新たに資源として活用できる可能性も期待できます。このことから、地域資源を活用した新たな商品開発や販売に加え、産業観光プログラムの導入を行い、産業分野における地域資源の発掘と活用に向けて取り組みを進めていきます。また市内における地域資源の普及啓発として、市内イベント・店舗などでの地域資源のPR、地域資源を取り入れた給食メニューの提供といった従来の内容に加え、新たに観光資源を組み合わせた事業の実施を行います。これは、地域資源の認知度を上げるため、すでに認知度のある観光資源などと組み合わせたツアー造成や情報発信を行うことで、より効果的で効率的なPRを行うといったものです。

70 ページをご覧ください。6 番目の観光戦略は、観光スポットとしての環境強化についてです。今回の改定の中で、キーワードである小牧山だけをみても、来訪者や事業者へのアンケート調査では、駐車場等が不足しているという声が多くありました。そのため、ハード整備においては、市内の大型バス駐車場の確保やトイレの整備など、観光客の受け入れ体制を拡充していきます。またソフト面においては、これまで不足していた外国人来訪者への対応について、インバウンドの回復を背景に、外国人来訪者にも対応ができるような英語ボランティアガイドの育成や、スマートデバイスを活用した多言語対応のWebアプリなどコンテンツの拡充に取り組んでいきます。

以上で資料1、計画素案に関する説明を終わります。

【委員長】

説明ありがとうございました。

(資料配布)

今配布しましたA3の資料、そちらは、前計画のもので、資料1の50ページをご覧ください。補足で説明させていただきます。

A3の資料の下の方に評価指標と数値目標で220万人から300万人へ伸ばすと書いてあります。それが素案では、50ページにありますように、5つの評価指標、来訪者数、本市への愛着・誇りを感じる割合、来訪者の満足度、市内での消費額、観光情報アクセス数に置き換わるということ、まず、大きな点は、そこです。もう一点の大きなポイントについては、A3資料の右側と素案の7ページをご覧ください。前計画だと、テーマがあり、キーワードがあって施策が横に紐づけされています。名古屋コーチンのところを見ていただきますと、イベント・プロモーションの展開等という項目がありますが、これは、小牧山にも航空宇宙産業にも関わってくるのではないかと事務局からありましたので、全部に掛かるように、キーワードやテーマについては、上に持っていきました。そして、すべての項目に掛かるように配慮させていただく中で、観光戦略を6つ新しく設定させていただきました。事業者支援(育成)強化や情報発信力強化、広域連携強化、おもてなし人材育成強化、地域資源の育成・魅力向上、観光スポットとしての環境強化に施策を紐づけしたということでご理解いただきたいと思っております。改定の大きな項目は、この2点になります。その中で航空宇宙

産業は、観光の観点からMR Jが撤退したということもあり、少し悩ましいところではありますが、その辺も含めまして皆さんのご意見を頂戴できればありがたいと思います。よろしく申し上げます。何かご意見がございましたらよろしく申し上げます。

【三輪委員】

今回、4回目の委員会ということで、これまで前計画の内容や実態調査などを踏まえて、作りこみいただきましてありがとうございます。今年度中に作りあげて、2024年度からということですが、今更ですが、委員長から前計画と今回の計画との作りこみの違いを説明いただきまして、商工会議所でも観光振興の事業・企画をしたりしていますが、キーワードの中で、小牧山は、小牧市のシンボルで普遍的ですが、名古屋コーチンや航空宇宙産業については、会議所でも名古屋コーチンの取り組みを10年やってきてPRしていますが、小牧市イコール名古屋コーチンかというところはまだまだ程遠くて、引き続き取り組みたいと思っています。資料にもありましたが、名古屋コーチンだけでなく、桃やぶどうもあります。私たちも小牧市から観光資源開発の事業費補助金で支援を受けており、補助対象経費を名古屋コーチンに特化していたものを、コーチン以外も幅広く対象にもらって、小牧ブランドを上げようとして動いています。航空宇宙産業に関しては、MR Jの取組がなくなったので、前計画と今回の計画では、大分違いがあるのではないのでしょうか。県のあいち航空ミュージアム等コンテンツはあるにしても、新たに航空宇宙産業で何かを作り上げるとなると大変難しいと思います。FDAさんとも日ごろから一緒に取り組んでいます。FDAさんの場合は、交通やそれぞれの就航都市との連携など、産業との位置付けとは違うと思います。既存の航空関連の中小企業は、沢山ありますが、それが観光と結びつくかというところが難しいところ。そういった中で前計画からのキーワードが3つあり、その戦略推進策という考え方、今回の計画にしても、重複するところを一緒にするというだけで、組み立ては変えているが、結局3つのキーワードを中心に考えているので、今回の計画の59ページの推進施策と展開方向で、課題があつて、戦略があつて、その策の中に小牧山や航空宇宙産業などのリソースがあつて、更に具体的な事業をどうやってやるかということなので、対象が名古屋コーチンだけというのもどうかと思うし、航空宇宙産業も厳しいと思うので、それまでの方向性を踏襲するというのはどうか。今になって恐縮ですが、気になっている点ということで意見をさせていただきます。

【委員長】

はい、ありがとうございました。確かにそうですね。キーワードとして3つ見える化されていることにより、その3つのキーワードに紐づけられた施策に限定されるように見受けられることがありますので、その点について事務局どうでしょうか。

【事務局】

確かに三輪委員のおっしゃるとおりで、航空宇宙産業については、MR Jありきではなかったところがありますので、時間は限られていますが、三輪委員の意見を踏まえて再検討させていただければと考えております。

【三輪委員】

もう一点、テーマは“夢・チャレンジ”始まる観光、ということで前計画を踏襲していますが、ビジネス的に言うとテーマの他にコンセプトやビジョンがあつて、その中でキーワードが出てきたりするという認識でいるのですが、ここでいうビジョンはどんなものだろうか。小牧市として観光都市を目指していくということでビジョンがあつて、コンセプトとなると大きな計画の中で限定

しにくいかと思いますが、ビジョン、テーマ、コンセプトを使い分ける方法もあるということを一
つ付け加えさせていただきます。

【委員長】

ご意見ありがとうございます。その他気になることがあれば、ご意見をお願いします。

【田中委員】

今のご指摘について、おっしゃる通りだと思いました。観光の仕方や観光ターゲットの設定で一
部解決できることもあるのかなと思いましたので、よろしければ、ご相談にのることはできるか
と思います。気になったところとして、ターゲットとしては、団体旅行を想定していますか。

【事務局】

コロナ禍以降、団体旅行は激減しており、個人旅行が主流となってきました。また、体験なども
重要視されるようになってきており、観光も変わってきています。団体旅行も徐々に回復傾向にあ
り、実態調査においても、個人で男性の50代の方が多く小牧山に来ているということがあるので、
そういったところも視野に入れながら、また、団体旅行も視野に入れて10年後の小牧市の観光の
未来を描ければと考えています。

【田中委員】

ありがとうございます。

【委員長】

旅行会社ならではのご意見をいただきました。ありがとうございます。ほかにご意見等あります
でしょうか。

【八木委員】

団体旅行は、観光協会としても誘致したく、商談会なども参加しているのですが、注目度が上が
っている実感があります。その点では、資料70ページの観光スポットとしての環境強化の新規事
業で観光客の受け入れ体制の拡充は、市内の大型バスの駐車場の確保など団体向けに考えられてい
ると思うのですが、小牧山に限って言えば、バス用の山西駐車場から小牧山の大手口までは、結構
歩くし、通路も狭くて危険なところがあります。市役所の反対側に乗降場がありますが、あまり開
放されていないので、ここを常時開放すると旅行会社も動きやすくなるのではないかと思います。
それから、三輪委員も言われたキーワードは前回から変わっていないので、流行も見極めてキー
ワードを作り直すとか、今のままでは私もどうかと思います。

【鶴飼委員】

先ほど団体旅行と言われましたが、実はずっと継続して来ています。コロナ関係なしです。クラ
ブツーリズムは、コロナでも継続して同じ数だけ来ています。観光協会には連絡がなく、専属のナ
ビゲーターと来ているので、ガイドボランティアとあまり関与していませんが、10月に3回、11月
に4回来ることが決まっており、団体旅行は、全然減っていません。歴史ハイキングで11月29日
に東京から来ます。西武観光バスも大阪から来ます。名鉄ホテルで食べて、メナード美術館に行っ
てから、多治見、徳川美術館、マザック美術館へ行くツアーがあり、高級観光バスに乗って大阪か
ら来ます。小牧山だけでなくメナード美術館にも団体客が来るということです。以上です。

【委員長】

実情をお伝えいただきありがとうございます。他に計画の中でこうした方がいいなどありました
らよろしく願いいたします。

【木下委員】

市の観光振興基本計画なので、目的としては、45 ページに記載がある、シビック・プライドの醸成と経済振興のこの2点に尽きるかと思えます。これは個人的な意見ですが、両方とるのは現実的には、中々難しく、シビック・プライドにいくのか、経済振興にいくのかは、どちらかに寄せなくてはいけないと、いろいろなところでお話を聞いています。何となくですが、経済振興にいく方がいいと私は思っており、シビック・プライドは、住民向けの視点なので、満足度だけでは測りにくく、分かりやすい経済振興に軸足を置いた方がいいと私は思います。もう一つは、田中委員からありましたように、ターゲットが少し不明瞭な気がしました。先ほど団体か個人かとの話がありましたが、どこからか引っ張ってくるのか、例えば、名古屋市からか、もっと遠方か、それこそインバウンドなのか、ターゲットが不明瞭ではないでしょうか。ターゲットによって観光施策が変わってくると思えます。どこに情報発信していくべきなのか。そのあたりをより明確化していった方がいいと思います。

【委員長】

更にターゲットを絞って明確化し、具体的な計画案にした方がいいとのご意見です。事務局、いかがでしょうか。

【事務局】

まず、愛着・誇りか、産業振興かというところですが、市としましても、税金を使って、お金をかけて観光振興を進めていく中で、何かしらのものがないと継続はしにくいと考えています。住民の愛着・誇りももちろんゼロではないのですが、軸足は、産業振興の方向がいいと考えています。ターゲットについては、事務局としても悩ましい部分ではありますが、仮に本市の観光振興基本計画で、東海三県の50代にターゲットを固めてしまうのは、難しいと思っています。例えば、情報発信もフェイスブックやインスタグラムなどを使い、そのターゲットは、年代がバラバラになると思いますので、媒体によって、ターゲットと発信内容を定め、ターゲット毎にツールを絞っていったらと考えています。この計画全体でターゲットを絞るのは、少し難しいと考えています。

【委員長】

確かに木下委員のおっしゃる通り、ターゲットをもう少し明確化するとわかりやすいというところを含めて、今のご意見を参考にさせていただきたいと思えます。他に何かございますか。

【松浦委員】

今回の計画は、2024年度から2028年度までなのですが、SDGsの観点がここにはなく、どこかにそのような取り組みを書いた方がいいのではないかと思います。電気自動車や電気バスなどどのように進んでいくのかはわかりませんが、SDGsは、どこかにあった方がいいと思いました。それからMRJは終わったのですが、11月に県営名古屋空港にスカイドライブが来ます。スカイドライブは、EVツールであり、ドローンで人を運びます。本社が名古屋空港にきたら、離発着の場所を小牧市が用意するのかわかりませんが、2025年の万博で旅客輸送が始まります。小牧ハイウェイオアシスと結ぶなど航空産業が注目されるかと思えます。小牧にはFDAもありますが、これらは、EVツールであり、SDGs的にもエネルギーが電気なので、そういった観点も時代の流れでこれから注目を浴びてくるので、どこかに入れた方がいいと思います。どこに入れたらいいかは、わからないのですが。

【事務局】

松浦委員のご指摘のとおり、SDGsの観点、必要と考えており、3ページに小牧市がSDGs未来都市であると記載はしております。

【委員長】

先ほど木下委員からも産業振興の話がありましたが、そちらに力を入れるのも重要と考えています。貴重なご意見ありがとうございます。

【三輪委員】

事例ですが、小牧市の特産品開発、グルメ開発の一環で、会議所にてお手伝いさせていただきましたが、小牧と春日井と豊山に自衛隊の基地があります。海上自衛隊だとカレー、航空自衛隊は空に上がるということにかけて、空上げ(からあげ)を何年もやっていて、小牧基地でも空上げをやっており、レシピを広く発信し、市内の事業者にも小牧基地空上げを活用してほしいと動いていました。既に飲食店、喫茶店、料理店、製造会社、スーパー銭湯でも取り組みが進んでおり、5社くらいで進んでいます。今まで名古屋コーチンでやってきましたが、名古屋コーチンでなくても、自衛隊という地域のブランド、基地ということでデリケートなところもありますが、航空祭も何万人も来るイベントですので、基地のあるまちということを有効に活用していけたらと思います。鶏の唐揚げは、みんな大好きなので、名古屋コーチンでなくても、小牧市として発信して行けるかと思ひますし、その中に高級な名古屋コーチンがあってもいいと思ひます。最初の話に繋がりますが、計画で名古屋コーチンとしてしまうと、自衛隊の空上げも名古屋コーチンにしないといけないなど縛られるので、今回自衛隊との取り組み事例を少しお話させていただきました。

【委員長】

キーワードと地域資源の観点からご意見をいただきました。こういった貴重なご意見をもとに改定を進めてまいりたいと思ひます。

【副委員長】

皆様のご意見を伺って思ったのですが、キーワードを小牧山や名古屋コーチンなど今ある固有名詞にしないで、例えば、小牧山は小牧市の過去、名古屋コーチンは現在、航空宇宙産業は未来と位置付けできるので、そのあたりの要素も入れて、小牧山は、過去の文化財として力を入れていく、名古屋コーチンをグルメとして位置付ければ、名古屋コーチン以外にも、地域の農産物も入れてよいかと思ひますし、航空宇宙産業は、宇宙航空産業にした方が宇宙ということで、もっと未来が広がり、小牧市はそういう市というイメージになります。小牧市の発信として、過去は、文化財をこんなに持っている、現在は、農業をこんなにやっているし、いろいろなグルメもあり、名古屋コーチンもある、将来、どんどん空への産業も広がっていくといったことを見せるような、より前に進むイメージをキーワードに入れた方が広がっていくと思ひました。皆様がおっしゃっていたのは、そういったことなのではないかと思ひ、発言しました。

【委員長】

ありがとうございました。やはりキーワードが3つの固有名詞だと、どうしてもそこに縛られる印象があるので、未来形にもっと発信できるようなキーワードを含め、考えていただきたいというご意見でした。

【事務局】

皆様からご意見をいただきましたので、事務局としてもしっかりと骨組みを考えたいと思ひます。今回の計画を作っていく中で、その大前提として、まず小牧を選んで、来ていただいて、しっかり

とおもてなしをして、それが産業振興に繋がればと思いますので、そのあたりも踏まえて、見直しを行い、キーワードという表現がいいかということも含めて再検討したいと考えております。時間が無い中ではありますが、また、皆さんにご意見をお願いしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

【上野委員】

キーワード3つ目の航空宇宙産業について、副委員長から宇宙航空産業にすると、将来に向かってひらいていくようなイメージになるのではとのご発言がありました。名古屋空港については、よくご存じだと思いますが、F D Aが使っている敷地は、空港の5分の2くらい。あとは、県の消防、航空隊、県警の空港隊、大谷翔平の乗ってきたビジネスジェットの基地、ヘリコプター、遊覧飛行、カップルでナイトツアー等をされている業者が沢山いらっしゃいます。MR Jが抜けてこれからどうするということはあると思いますが、今申し上げた企業は、空港がないと立地しないので、名古屋空港に来て、そこから名古屋周辺の周遊やナイトクルーズ等のためのゲートウェイであるという売り方もできるのではないかと思います。

【委員長】

キーワードを検討する中で、具体性を持たせていく方向ということによろしいでしょうか。大変貴重なご意見ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

【三輪委員】

先ほど副委員長のおっしゃった未来の位置付けをしたまちづくりということで、松浦委員、自動運転は、今後小牧市で進むのでしょうか。航空宇宙産業ばかりではなく、観光に利用できる自動運転の可能性はどうなののでしょうか。

【松浦委員】

ないかな。実際、いろいろなところで実験されていますが、私は自動運転には反対で、絶対に乗務員が1人乗らなくてはいけないので、普通のバスと一緒になのです。日本の中で全く乗らないというのは多分できないと思います。小牧市も2月に実証実験をしますが、パフォーマンスであって、現実的には難しいです。ただ、電気自動車は、小牧市にBYDが旗艦店として出店するので、現実化すると思いますが、自動運転は、絶対乗務員が1人乗らなくてはいけないので、観光で自動運転は、難しいと思っています。

【委員長】

ありがとうございました。折角の機会ですので、現状も含めて、松井委員いかがでしょうか。

【松井委員】

商工会議所の方の計らいもあり、先ほどお話に出ました空自空上げを9月からレストランの朝食バイキングの一つとして出しています。甘辛な手羽先のような感じで、好評いただいております。ランチも食数限定ですが、8割方売れています。好評ですので続けていきたいと思っています。小牧市は注目されており、中京テレビのP S純金ゴールドという番組の名鉄小牧線特集でうちのカフェの取材にきましたし、名鉄グループのスポンサーのゴリ夢中という番組も小牧市の特集で空自空上げの取材にきて、今週の土曜日に放映されます。団体旅行については、インバウンドもあり、名古屋市内の宿泊施設がいっぱいで、姉妹店の犬山のホテルもいっぱい、その次に小牧という状況です。現在家康プランを販売しており、約60泊分の割引と地域振興券をつけて販売しています。限定60泊のうち25泊は売れています。

【委員長】

ありがとうございます。家康プランは始まったばかりですか。

【松井委員】

はい始まったばかりです。

【鶴飼委員】

先ほど話に出たゴリ夢中は、10月は全て小牧特集だそうです。来週が自衛隊の空上げで、あと3回小牧特集で放送されるそうです。是非お楽しみください。

【委員長】

桃やぶどうがある中、池本委員、現状はいかがでしょうか。

【池本委員】

特産物として桃・ぶどうなどありますが、桃はこまきゴールド、黄色なのですが、今新種としてやっています。新聞に載ると同時に問合せがありますが、実際やっているのは1軒しかなく、枝分けするととなると、皆さんのところで販売できるのは、5年以上かかります。1軒でしか販売しておらず、本当に貴重なので、私たちもほとんど食べていません。職員でも手に入らないという状況です。現状農家が減っているのです。桃も数が減って、貴重になってきています。そこがもどかしく、市役所から桃を使った加工品を特産品にできないかという話もありましたが、やはり、桃はすぐに痛むので、長期保存が難しいです。個人農家が集まって農協で出荷しているのですが、組織がないので、個人農家と話をして数を確保するのが難しく、桃の和菓子はありますが、洋菓子は中々できません。加工が難しく、もどかしいという現状があります。

【委員長】

ありがとうございます。貴重な資源もPRできればと思いますので、そこを含めて大変貴重なご意見をありがとうございました。

【松浦委員】

観光協会としては、石垣を使った城を初めて作ったのは、信長であるとPRしてきました。今年、家康ですが、来年は、信長が城を作って、秀吉が出てきて、家康が天下をとったということで、天下とり隊としてこの3人を押していく方針で、名古屋駅のバスやこまくるに天下とり隊3人そろって、三英傑が関わった山が小牧にあるということで売っていきたいと思い、グッズも作っています。

【鶴飼委員】

地球の歩き方の愛知県版は、ほとんどが山車祭りで、小牧山は少ししか載っていませんでした。東京の人が考えると小牧はこういうものなのだなど。あと、田縣神社などが少し載っている感じ。るるぶには、全く載っていない。犬山、瀬戸が載っていて、長久手も住みよいまちで載っている。あと知多半島が少し。小牧も若い女性が見る雑誌に載っているといいと思います。

【副委員長】

グルメで農産物の話がありましたが、この地域は、寒天の材料など、食品を作るもとなる材料を作っている工場があるので、そのあたりは、何かに活かせないかと思います。

【三輪委員】

食品関係の企業は、全国レベルで認知度の高い企業もあります。説明の中でもありましたが、しるこサンドや航空宇宙産業など産業観光として企業の見学など受け入れが進むと違った面で観光都市ができあがるかと思っています。

【副委員長】

しるこサンドが、小牧と知っている人が少ない。

【池本委員】

いろいろな企業が小牧市には入っているので、財政が潤っていると思います。しるこサンドも、はるな愛の番組で紹介されており、いろいろな味を作っているので、団体旅行を誘致するのであれば、見学に協力してもらえるとみんな来ると思います。遠いところからだけでなく、愛知県内の人も呼べると思います。女性は、食べることに興味があると思いますし、見学して、実際に試食して、買い物できれば、結構お客さんは来ると思います。そのようなところがいっぱいあって、情報番組で小さいお店の情報など発信してもらえればいいのではないかと思います。そういう情報を小牧市として活かせるといいかと思えます。

【副委員長】

全然手に入らない鎌倉のクルミッ子というお菓子があります。朝 10 時に行かないと買えません。ネットでも 1 人 2 パックまでの限定で売られています。そこは、体験もやっています。アウトレット品を売っている工場もあります。地域で有名で手に入らない幻のお菓子といわれています。そういったものが小牧にもあるので、是非紹介してほしいと思います。

【三輪委員】

企業も産業観光を受け入れたいと思っていますが、生産用とは別の見せるラインをつくって更に人を配置となると、一般企業の経営課題として難しい面があります。小牧市が観光振興補助金などを実施して支援してもらおうと進むかと思えます。観光振興においてもこれから先、マンパワーがいる策は難しいと思えます。デジタル化や人の手がかからない理想的な推進策も課題かと思えます。

【委員長】

産業の話も網羅させていただきながら、計画の中に盛り込んでいきたいと思えます。ありがとうございます。大河ドラマが終わっても三英傑でやっていくとのこと頼もしいです。秀吉と家康が戦ったのが唯一、ここ小牧・長久手ですから、三英傑が一堂に会して関わったのは、小牧山しかないという中々貴重な場所です。

【鶴飼委員】

三人が住んだのは、歴史上小牧だけです。

【委員長】

ありがとうございます。他にご発言があれば、どうでしょうか。ありがとうございます。では、皆様のご意見も出尽くしたということですので、3のその他、事務局の方よろしいでしょうか。

3 その他

【事務局】

今後の委員会の開催予定につきましては、改めて事務局からご連絡をさせていただきますので、よろしくをお願いします。

【委員長】

ありがとうございました。以上で、第 4 回小牧市観光振興基本計画改定委員会を終了とさせていただきます。

長時間にわたり、ありがとうございました。

以上